

【韓国】 日韓及び日中韓首脳会談に対する韓国側の評価

九州大学韓国研究センター助教 菊池 勇次

(本稿は、海外立法情報課が執筆を依頼したものである。)

* 2015年11月1日に日中韓サミット、翌2日に日韓首脳会談がそれぞれソウルで開催された。両会談の開催は2012年5月以来3年半ぶりであり、日中韓サミットでは「歴史を直視し、未来に向かう」精神に基づき、関係改善と協力強化に努力する旨表明し、日韓首脳会談では、慰安婦問題の協議加速化を両首脳が指示した旨発表した。

1 日中韓サミット

2015年10月28日、韓国大統領府は11月1日午後の日中韓サミット、11月2日午前の日韓首脳会談を行う旨発表した(中韓首脳会談については10月26日に発表)。

11月1日午後に行われた第6回日中韓サミットについて、韓国大統領府は次のような報道資料を発表した。「今回の3か国会議は、韓国を議長国として朴槿恵(パク・クネ)大統領が主宰し、3か国協力の評価及び発展方針、主要地域及び国際情勢などについて意見を交換した。この場で安倍首相と李克強首相は、朴槿恵大統領のリーダーシップにより3か国首脳会議が再開されたことは歴史的意味が大きいと評価した。朴槿恵大統領は3か国協力が進むべき方向として、①北東アジア地域の平和と協力に寄与、②3か国の経済統合、③経済、環境、社会を併せた均衡発展、④人的交流及び文化交流の拡大、⑤地域の懸案及び国際的懸案に関する緊密な協調の5つを提示した。加えて3か国首脳は、2010年の「3か国協力 VISION 2020」で提示した「歴史を直視し、未来に向かう精神」が3か国協力の土台になるべきだという点について共感した。続いて、「主要地域及び国際情勢」セッションにおいて3か国首脳は、3か国の協力が北東アジア地域はもちろん、国際平和と繁栄に主導的に寄与するよう3か国協力を強化する必要性について共感を表明した。のみならず、北朝鮮をめぐる核問題などに関連して、北朝鮮の核を認めず、北朝鮮の非核化〔筆者注：共同宣言文では「朝鮮半島の非核化」〕に対する共感に基づき、意味のある6者会合の速やかな再開のため、ともに努力していくことに共感した。一方、今回の首脳会議で3か国は、協力発展方針を盛り込んだ「北東アジア平和協力のための共同宣言」を採択した。」

この会談の成果に関し、与党セヌリ党は同日に行われたブリーフィングにおいて、共同宣言文の内容のうち、特に北朝鮮核問題での協力と6者会合の早期再開について、「大きな意味がある」と評価し、「今回のサミットでの成果が3か国協力を一層発展させていく礎石を固めるきっかけとなることを期待する」と述べた。

同日、最大野党である新政治民主連合はブリーフィングにおいて、日中韓サミットの再開を「北東アジアの平和のために望ましいこと」と歓迎し、経済協力の一層の強化を期待する旨述べた。他方、北朝鮮核問題に関しては「進展した議論及び合意がなかったことは遺憾」と評した。また、「朴槿恵大統領は歴史を直視し、未来に進むべきだと強調し

たというが、この言葉を真っ先に胸に刻むべき当事者は「野党の反対にもかかわらず、韓国歴史教科書の国定化を進める」大統領本人だ」と指摘し、国定化の放棄を求めた。

2 日韓首脳会談

11月2日午前に行われた日韓首脳会談では、朴大統領と安倍首相が午前10時10分から50分間の少人数会合を行ったのに続き、約45分間の全体会合を開催した。この会談について、韓国大統領府は次のような報道資料を発表した。「今回の首脳会談で両首脳は、両国間の主要懸案、両国関係の未来志向的発展方策、北朝鮮核問題への対応等、相互の関心事について意見を交換した。朴槿恵大統領と安倍首相は、今回の首脳会談が両国関係改善の重要な転機にならなければならないという点で認識が一致し、両国関係改善の障害となっている主要懸案の解決を通じ、未来志向的かつ互恵的な協力関係を築いていくために一層努力していくことにした。朴槿恵大統領は、慰安婦問題が両国関係改善の最も大きな障害になっていると指摘し、被害者が受け入れることができ、我が国民が納得できる水準で速やかに解決されるべきであるという点を強調した。また、両首脳は今年が韓日国交正常化50周年という転換点に当たるという点を念頭に置き、なるべく速やかに慰安婦問題で妥結するための協議を加速化するように指示した。経済問題に関連して両国首脳は、韓中日FTA、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)の交渉などを評価し、協力を続けていくことにした。のみならず、両首脳は活発な人的交流が両国関係発展の根幹という点に共感し、両国青少年のより活発な交流を通じ、相互理解及び協力拡大につながるよう、ともに努力していくことにした。」

この会談について、与党セヌリ党は11月2日のブリーフィングにおいて、「両国の関係改善のため、一歩進展した合意を成し遂げた点を高く評価する」と述べた。特に慰安婦問題協議の加速化を「意味ある試み」と評し、このほか、経済及び北朝鮮問題での協力強化を成果として挙げ、「未来志向的な韓日関係を構築するための礎石を築いた」と評価した。

同日、最大野党である新政治民主連合はブリーフィングにおいて、「過去の歴史に関する問題について、結局、特段の成果を導き出せなかったという点で非常に失望した。両国首脳合意は、(中略)早期に慰安婦問題解決のための協議を加速化するという水準にとどまった。(中略)失敗した会談と評価せざるを得ない」と述べ、朴大統領が慰安婦問題の進展を首脳会談開催の条件に掲げていた原則を「突然曲げた理由が何なのか国民の目線では理解しがたい」と批判した。また、日本政府の態度に強い遺憾の意を示すとともに、朴大統領にも安倍政権の態度を反面教師とし、歴史教科書の国定化を取りやめるよう求めた。([]内は筆者補足。)

参考文献(インターネット情報は2015年12月14日現在である。)

- ・「박근혜 대통령, 제6차 한·일·중 정상회의 주제」及び「박근혜 대통령, ‘아베’ 일본 총리와 정상회담」<<http://www1.president.go.kr/news/newsList.php>>より
- ・「한일정상회담, 새로운 한일관계의 지평을 열었다[신의진 대변인 현안관련 브리핑]」<http://www.saenuriparty.kr/web/news/briefing/delegateBriefing/readDelegateBriefingView.do?bbsId=SPB_00000000805489>
- ・「[브리핑]원칙 잃은 한일정상회담, 국민 눈높이로는 이해하기 어려워」<http://npad.kr/npad/?page_id=672&mod=document&uid=81986>